

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	渡邊, 国広
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1953
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.46, No.12 (1953. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19531201-0105">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19531201-0105</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

平和のうちに一九五三年を送り得たことを、何はともあれ喜びたい。しかしこの一年を通じて、独立後の日本の進路が多くの國民に豫想されたものと、ともすれば食違い勝ちな方向にあるということがいよいよ明瞭になつたため、独立二年目に入つても、新しい建設のための力が十分に伸びきらず、むしろ懷疑と不安とが増して来たという感が深い。

このことが直接には世論に反映されている。軍備とか平和とか、安全保障とか自主独立とか、切實な問題を繞つて、意見の相違が見立つて大きくなり、どうしても相容れないような對立が著しくなつて来た。そして早くもかかる對立が簡単な色わけでは區別できないまでに複雑なものとなつて来て、味方の主張はすべて是、敵の主張はすべて非という考え方が一般的になりつつある。これは否定できない。

複雑な意見の對立を前に、頑固は飽くまでも排さなければならぬ。と同時に、もの本質を究めようという心が各自の心に深く根をおろすことが、もつと望ましい。この一年を振り返つて、その點、多少とも反省の餘地がありはしないか。我々の身近かな周囲だけでも、理と情とが混同しない場であつてほしい。正しい批判精神のみが國の前途を誤らせない。この點、新しい年に期待するところ大きい。  
(渡邊國廣)

昭和二十八年十一月二十五日印刷  
昭和二十八年十二月一日發行

第四十六卷 定價 七〇圓  
第十二號 送料 八圓

東京都港區芝三田慶大經濟學部内  
編輯者 高村象平  
發行所 圖書印刷株式會社  
印刷所 川口芳太郎

豫約購讀料  
一年分 金八四〇圓(送料共)  
半ヶ年分 金四二〇圓(〃)  
東京都港區芝三田二丁目  
慶應義塾大學經濟學部研究室内  
發行所 慶應義塾經濟學會